



湾岸・アラビア半島地域ニュース

クウェイト：自国通貨のドルペッグ制放棄

(5月21日付現地各紙)

5月20日、クウェイト中央銀行は、ドル価格の他通貨に対する下落に伴う国内インフレの影響を食い止める為、ドルペッグ制を放棄しバスケットペッグ制へ移行すると発表した。

1. アブドゥルアジーズ・アル・サバーハ中央銀行総裁の発言：

- (1) 主要通貨に対するドル・レート下落により、国内のインフレが加速してきており、今回の中央銀行の決定は、インフレ圧力抑制の為の方策の一部である。
- (2) ドルペッグ放棄後のクウェイト・ディナール(KD)の対ドル・レートは、1ドル=0.28914KDから0.288806KDへ0.37%上昇したが、クウェイトは今でもGCC通貨同盟にコミットしており、通貨同盟の樹立、及びGCC内統一通貨の確立に必要な準備が終了するまで、クウェイト中央銀行は為替レートのバスケット制を維持していく。
- (3) 今回の為替システムの移行により、為替レートの設定をより柔軟に行うことが可能となり、主要通貨の急激な相場変動の衝撃を緩和し、国内経済力を向上させることが可能となる。(注：クウェイトが2003年にドルペッグ制に移行した際、1ドル=0.29963KDで、±3.5%の変動可能枠を設け、上限0.31011KD - 下限0.28914KD内の変動を認めていた。しかし主要通貨に対するドルの下落で、昨年中に下限の0.28914KDに達していた。)

2. 関係者の反応

- (1) アッティヤ GCC 事務局長の発言：他のGCC5カ国はクウェイトに続いて通貨切り上げを行わない見込みである。
- (2) ザドジャリ・オマーン中央銀行総裁の発言：我々は本決定を知らされていなかった。湾岸諸国のリーダーはドルペッグ制採用の姿勢をとっており、オマーンはこのリーダー達の決定を尊重していく。
- (3) ハッジ国会担当副首相の発言：本決定は、2010年のGCC通貨統合達成年度に間に合わせるのが困難とのオマーンの発表と移行準備の遅延を考慮に入れたものである。
- (4) クウェイト人エコノミストの評価：本決定は、米国以外からの輸入品に対する支払額を減らせるので国内のインフレが緩和されるだろう。実際のインフレ率は、計画省発表の5.1%（今年第1四半期）より高く8%以上と思われる。

3. 今回、クウェイトがドルペッグ制を放棄したことにより、通貨統合に向けたGCC諸国の取り組みはますます五里霧中の状況に置かれることとなる。通貨統合の神髄は統一通貨政策の実行であるが、2010年をデッドラインとするGCC通貨統合達成の見込みは遠のいている。